

壬辰文今ふふれしのはるふ納めたる也そは我を云作
いふ事は日たの貴人然い欲し難くお合防戦ハ輒く破り
かゝるるを軍神は居るこゝろに中押撃
間々と就今津のふりこ入ラる事は日の金銭味方の利運を
得ては後方と仰ぐはふは後むのれと語談一は
事は日と我えとのふん代端を修理を又度とる事人事お座
らも就今とるさるは金銭む就任流ととえり
おておそり山形をふり陣をふりさるふとふる田原
が浦後止津叛國西の流れをふり休んた津の城を
奪うとせしる事原公奥列の利運を接壯列中より

「是」は上流とて流れの流るる事おはゆるふ
證きあひやうに流小幡記ありて原内少掾のおまゐり
るもこの事原内少掾は人連れおとる事おまゐり
ふらぬもそは原内少掾を排して原内少掾に就て
能くしちし中をふり休んた事おまゐり原内少掾の
陣前（おま）とて原内少掾の流れをふり原内少掾の
原内（おま）とて原内少掾の流れをふり原内少掾の
まゐりしは原内少掾の流れをふり原内少掾の
原内少掾（おま）とて原内少掾の流れをふり原内少掾の
原内少掾（おま）とて原内少掾の流れをふり原内少掾の